平成29・30年度　基本施策・重点施策の達成状況評価

【参考資料2】

基本施策・重点施策	H29年度事業　委員会評価	H30年度事業　委員会評価・意見
1　市民活動の裾野の拡大	イベント等の広報を行う際、チラシにデザイナーを起用することを検討すると良い。市民にも広報（デザイナーや情報発信力のある方）が上手い人がいると思われ、協働してイベント広報に取り組めるといいのではないか。	・SNS が普及し、様々な方面からイベントのアプローチが可能になった。 SNS から情報を受け取れる人、逆に SNSからの収集を苦手としている人がいることも考慮する必要がある。 ・情報を誰に、どのように伝えたら効果があるかという講座があったらよい。 ・口コミによる効果は大きいと思う。
重点施策　(1)市民活動の**きっかけづくり**	市民活動のきっかけは、活動を楽しく感じてもらうことが必要。また、自分が興味のある活動の講座に参加する等、「学び」がきっかけとなることは多い。市・武蔵野プレイス・市民社協が行っている事業は多くあるが、それを必要としている人が目につく工夫をするとよいのではないか。	・参加者が減少してでもやることに意味がある事業はあると思う 。 ・市民団体が行う事業と市の事業と内容が重なっているものが散見された。相乗効果ともとれるが、参加者の取り合いになってしまってはもったいない。 ・市などが用意している 補助金の上限金額が低いのではないか。また、対象や条件も厳しく、もっと緩く運用できればよいのだが。 ・楽しく活動していたことが、少しだけ場を変えることで市民活動になる。趣味等のグループに公益性のある活動の場を提供する仕組みを研究してはどうか。 ・学びに来た人に、関連する活動を紹介できると、きっかけづくりとして有益である。 ・地域や社会の課題に触れる学びや啓発の機会を拡充していってほしい。 ・企業と市民活動団体の橋渡しの充実を望む。 ・市のくらしフェスタ、プレイスの講演会・コミュニティマーケット、市民社協のおとぱ活動とそれぞれ事業に取り組まれている。この三者による取り組みは結果として参加者のライフステージが分かれているのではないか。 ・プレイス・市民社協・市の取り組みについて、例えばプレイスはそれぞれ生活そのものを模索中の若者・子育て世代、市民社協は自分の生活圏が固まる中高年世代など、メインとなるターゲットを絞ることで興味関心を掴みやすくなるし、棲み分けもできるのではないか。棲み分けができると連携や橋渡しもしやすくなるのでは。
2　市民活動の促進と自律・自立に向けた支援の充実	・財政的な支援という点はネックになりがちだが、従来の補助金等ではなく、企業等とのマッチングといった支援もあると思う。 ・武蔵野プレイスでは、各団体へステージごとの自立に向けた支援を行っている。 ・学びの支援だけということが、これまで多かったように思う。そこから活動にいかにつなげるかが重要。その部分のサポートがほしい。	補助金等、行政が支援した団体等には、効果を報告する場を設けるとよい。報告書を公開にすることも検討してほしい。また、成功事例を集めたイベントをやってみるのはどうか。
重点施策　(4)市民活動に関する**学びの機会**の提供	市民活動を活性化させるには、市が自ら行っていない事業であっても、近隣地域で行われている事業などの情報を持っていてほしい。 市民団体やボランティア団体、大学等が行っている市民活動に関する学びの場を見える化できるとよい。 コミュニティ未来塾むさしのの修了生が、市の長期計画市民会議にて市民ファシリテーターとして起用されている。そこで未来塾に興味を持った人が未来塾に参加し、次の市民会議でファシリテーターになるという流れができている。	・補助金申請が負担になっているのではないか 。 負担感を和らげるため、例えば 補助上限金額を増額してはどうか。 ・行政が自ら提供する学びの機会（直接提供）のみならず、補助金などの提供によって市民団体・大学・企業などに学びの場の提供を依頼すること（間接提供）もできる。このように、間接の仕組みを充実させるのがよい。 ・団体の成長ステージに合わせて組織運営・事業企画・実践の「ノウハウ」を学べる場を提供し続けることは大切である。効果的なスキルや知識はもちろん必要であり、活動しようとする市民のニーズにあっていると考える。 ・地縁による歴史ある活動は、長年の継続ゆえにマンネリ化の危険性が高くなり、目的を持った比較的新しい活動は、事業の継続性を運営の安定化に苦慮する。市民活動の意義や理念を学ぶ機会、活動の継続や運営の技術を学ぶ機会、そういったものの提供が望まれる。 ・会計の基本を学ぶ機会の提供は引き続きやってほしい。
重点施策　(6)**コーディネート**機能の強化	コミュニティ協議会でコーディネート機能を発揮できないか。地域で様々な活動をしている方が多く、繋がりづくりはやりやすいと考える。 また、中間支援組織は重要と思われ、市全体でなくとも目的別・分野別の組織があってもよいのではないか。	・市民活動団体が活動しやすいよう場の提供をすることが重要。 ・長くやっている団体を継続させていく講座は必要だと思う。 ・エコプラザが環境関連の市民活動をコーディネートする機能を高める。 ・いま敢えてコミュニティ政策と市民活動政策の連携が強く求められるのは、多様な住民の欲求と人の集散離合のスピード感に応えきれない悩みがコミュニティ協議会にあるのも一因と考える。 ・コミュニティ政策とコミュニティ協議会は市民の主体的な努力で市民活動の根幹を支えてきた貴重で再構築の難しい組織である。 ・コミセン事業に顔を出すだけでも成功と捉えるような、熱意ある若者世代に対する大人の寛容。一方で地域を支えてきてなお頑張っている先人に対する若者からのリスペクト、この両方が大切になる。 ・担い手の不足と高齢化は間違いなく、この不安と危機感を払拭しないとならない。コーディネート以前の問題と感じる。 ・行政も自主三原則に縛られすぎて、青年層から段階的に市民意識・コミュニティのあり方などを学ぶ機会を積極的に提供してこなかったのではないか。 ・各所にファシリテーターを生み出す一方で、市・プレイス・市民社協が連携して世代に応じてコミュニティを感じ学べる巡回講座のような取り組みが必要だと思う。
3　市民活動の場の利用促進	・武蔵野プレイスの登録団体数は安定して推移している。 ・これまで、生涯学習という観点で、講演等を行ってきた。著名人であれば多くの方に参加いただけるが、そのあとの活動につながりにくかった。講義の後にマッチングを行う形に変更するなど工夫をしている。 ・創業支援施設などの情報を一括して提供してもらえると使いやすい。	・地域には多くの高齢者が住んでいるが、まだコミセンに来ていない人もいる。地域のたまり場となるようにしていきたい。 ・成蹊大学にはたまり場（ボランティアセンター等）があり、そこにコーディネーターがいる。 ・居心地の良さがあったらいいと思う。ちょっとした食事や音楽を提供するなど。
4　課題解決のための「連携と協働」の推進	・企業との連携協働は実は少なくはないのではないか。洗い出しが済んでいないと思う。 ・企業市民、企業の市民活動という点は現計画にはない。このあたりをどのように位置づけるかが次期計画で議論できると良い。 ・行政が関わる相談の窓口は全般的に固い印象がある。	コミセンが溜まり場になっていたり、武蔵野プレイスで様々な人がいたりすると、そこに関係している人は情報がもらえる。地域の繋がりができていると、ニーズを具体化できるということかもしれない。